

世田谷村日記

石山修武

九月三日

昨夜は午前三時迄原稿書き。今日は七時起床で残りを書き上げた。十時三〇分次女友美東南アジア旅行から帰る。これで一応家族らしきは全員そろった事になる。十二時半G A杉田インタビュー。十四時学部三年設計製図課題提出。十五時来客。十六時力の意志インタビュー。

久し振りに馬場照道から電話があった。佐藤健の事が心配だ。十八時世田谷村にて北海道十勝の後藤氏と打合わせ。会食。まだまだ若いスタッフとクライアントは会わせられないことを痛感する。

九月四日

聖徳寺現場檜垣が一人残っている。富士山のあの高度では朝夕は寒いだろう。真昼屋上菜園に上り散水。本当はこんな時間に水をまくのは良くないのは知っているのだが、ただただ今日はどうしても水をやりたかった。何故かな。十五時大学ホームページ打合わせ。十七時過大岡山東工大へ。篠原一男の東工大百周年記念館を初めて見た。写真の印象とは少し違う建築だった。この作家は空間を主題にしていない。フォーラムに問題を集中させていた事がわかった。目に見える事を一生懸命追っていたんだな。六角鬼丈仙田満と設計教育について座談。東工大の機関紙「華」らしい。教育の問題は近代以降の建築の歴史的背景を踏まえて論じなければ

ば意味はない。日本建築学会会長仙田満は総じて拡張論者である事が知れた。今拡張を唱える事は少し時代に鈍い感性の持主だと思うが、どうか。学会長はデベロパー的志向があまりの様だ。六十才になった六角の肩には芸大の建築学科の将来がかかっているな。世田谷に夜中帰る。嘉納先生より電話あり。稲門建築会の件。他人の振りみて我振り直せ。早稲田建築の将来も難問山積みだ。しかしながら単騎独行の私が必要な問題に巻き込まれている現状には我ながら苦笑せざるを得ない。

九月五日

今日はチョットとゆっくりさせてもらおう。朝、富士山にいる檜垣から電話。住職とも話す。何が起きるか不明である。ゆっくりゆっくり進めた方がよい。霊園は、ドイツのグライター氏が取得したのは喜ばしい。本格的な理論家への径を歩くこと~~を~~望んでやまない。午前午後共スケッチをしていたので疲れた。地下の連中も早く帰ったようなので、私も早めに休もう。十二時前寝る。

九月六日

九時過地下ミーティング。昼過大学へ。世田谷村1Fに石山研で作って流通させているモノのチョットとした展示小屋を作ることを決めた。問い合わせは少なくともないので、実物を見て触れる事ができる場所が必要だ。